

9 その他（自信と意欲をもたせる漢字指導）

～豆テストを効果的に利用しながら～（5・6年）

1 はじめに

高学年ともなると、漢字のみならず、すべての教科で個人差が見られるようになり、「どうせ自分は、何をやってもダメ!」「運動は得意だけど勉強は苦手!」という児童が見受けられるようになる。

そういった児童にも「努力は報われる」「練習した分だけ、結果として表れる」という、学習に対する自信と意欲をもたせたい。

2 家庭学習における漢字練習の仕方の例

豆テストに予告された漢字十問を、平仮名を見ながら漢字ノートに書く。市販の漢字ドリルは、漢字と平仮名がページの表裏になっているので、利用すると効果的。

答えのページを見ながら赤ペンで丸を付ける。

間違えた漢字だけ、練習する（回数は本人に任せる）。

全部できた場合、豆テストで百点の自信のある場合はそこで学習終了!

まちがいがあつた場合は、もう一度、「豆テストに予告された漢字十問を、平仮名を見ながら漢字ノートに書く」を繰り返す。時間を少しずらしたり、順番をわざと変えたりして行うとより効果的である。

ノートは毎日調べ、まちがつて丸を付けていないか目を通し、「頑張っているね」「完璧」等の励ましを添える。

年間を通して全て満点だった児童の努力の様子を紹介したり、工夫している児童のノートをコピーして教室に掲示したりすることで意欲付けを図る。

3 漢字豆テストの効果的な利用例

豆テストは、漢字ノートにはり付けておく。はったときにノートからはみ出さない大きさにして、大量に用意しておく。

出題するときに、出し方を少し変える。

例えば「顔」という漢字を出す場合、「顔を洗う」とか「母の顔」とか既習の漢字を取り混ぜて出題してみる。

「洗う」や「母」は、点数には入れないが丸は付けること、豆テストにたくさん丸が付く人が本当に力のある人」と話し、既習の漢字を使ってみようとする意欲を育てる。特に、漢字を得意とする児童に満足感を与えることができる。

丸がたくさん付いた児童には、点数のほかに「Good」や「見事!」などの一言を添えることより有効。

児童の実態に応じ、百点ならシール二枚、九十点ならシール一枚を配り、漢字ノートに貼らせる。

学期の最後にシールの枚数を確認し、がんばりを賞賛する。

簡単なものも取り混ぜて出題することで、苦手な児童に対しても意欲をもたせる。続けることが大切なので、負担に思わず「楽しみ」や「余裕」をもたせることで継続につながる。